ニンジャスレイヤー フロムアニメイシヨン

NINJA SLAYER FROM ANIMATION

二〇一五年春 アニメイシヨン化

2015年春にアニメ化も決まった「ニンジャスレイヤー」
その生みの親でもあるブラッドレー・ボンド氏、フィリップ・ニンジャ・モーゼズ氏、
さらに日本語翻訳を担当している本兌有氏、杉ライカ氏に
インタビューを試みた。

STORY

ニンジャ抗争で妻子を殺されたサラリマン、フジキド・ケンジ。
彼自身も死の淵にあったそのとき、謎のニンジャソウルが憑依。
一命をとりとめたフジキドは「ニンジャスレイヤー」
――ニンジャを殺す者となり、復讐の戦いに身を投じる。

近未来都市ネオサイタマを舞台に、
ニンジャスレイヤーvsニンジャの死闘が始まった。
マッポーの世に救いは無いのか?

走れ、ニンジャスレイヤー、走れ!

INTRODUCTION

凄い小説!痛快な展開!ヴィヴィッドでリアルな日本描写に全米震撼!
正体不明のニンジャ小説「ニンジャスレイヤー」。原作者であるブラッドレー・ボンドとフィリップ・N・モーゼズから権利を取得した翻訳チームが、Twitter上でのリアルタイム翻訳連載を開始!(https://twitter.com/NJSLYR)
2012年9月、翻訳版の書籍化が決定、その後様々なメディアミックスを経て、ついにアニメ化が決定!
ライジング・タイドめいたその勢いはとどまる所を知らない!

【前半戦】VSボンド氏&モーゼズ氏

ブラッドレー・ボンド
1968年生まれ。ニューヨーク在住。90年代にインターネットを介してモーゼズ氏と知り合い、共作を開始。言語学、歴史、伝統文化への造詣が深く、ニンジャ神話と北欧神話の類似点をいち早く指摘した。

フィリップ・N・モーゼズ
1969年生まれ。ロサンゼルス近郊在住。ニンジャの脅威に警鐘を鳴らしつつ、ボンドと共に作品を執筆。コンピュータ工学を学んでいたため、サイバーパンク的な考証も担当。アップルパイが好き。

ボンド:B　モーゼズ:M

これまでコミカライズや数多くのメディアミックスがありましたが、ついにアニメ化となりました。実際にアニメ化を聞いたときの感想をお聞かせください。

M:ワオ!本当に?すごいね!
と思ってビールを飲んだよ。
B:とても光栄な事だからね。書籍化やコミカライズの時と同じくらい感謝の気持ちでいっぱいだ。

アニメーション制作は海外でも人気のあるスタジオトリガーです。彼らの印象は?

B:我々は二人ともTRIGGERを知っていた。彼らはカラテが凄い。
M:キルラキルが野心的で素晴らしい作品だったので、期待しか無かったね。

アニメーション制作にあたりお二人から意見することはあるのですか?

B:翻訳チームを通し、脚本からキャラクターデザインまで全てに関わっている。翻訳チーム達もうるさい。コンセプト面では我々が大きなオーダーを出し、現場での細かな交渉や監修行為は翻訳チームが行う形だ。我々もTRIGGER社もクレイジーだ。ともに妥協をしない。双方が納得いくまで徹底的にやった結果、凄い相乗効果が生まれた。
M:我々から彼らへのオーダーで重視しているのは、何よりアトモスフィア、攻めの姿勢……ニンジャであり、ロックンロール。原初のサイバーパンクが持っていたあの猥雑なドぎつい感覚。何事も根本が重要だ。カラテと同じようにね。

これまでコミカライズやメディアミックスがありましたが、ついにアニメ化となりました。実際にアニメ化を聞いたときの感想をお聞かせください。

M:ワオ!本当に?すごいね!
と思ってビールを飲んだよ。
B:とても光栄な事だからね。書籍化やコミカライズの時と同じくらい感謝の気持ちでいっぱいだ。

アニメーション制作は海外でも人気のあるスタジオトリガーです。彼らの印象は?

B:我々は二人ともTRIGGERを知っていた。彼らはカラテが凄い。
M:キルラキルが野心的で素晴らしい作品だったので、期待しか無かったね。

アニメーション制作にあたりお二人から意見することはあるのですか?

B:翻訳チームを通し、脚本からキャラクターデザインまで全てに関わっている。翻訳チーム達もうるさい。コンセプト面では我々が大きなオーダーを出し、現場での細かな交渉や監修行為は翻訳チームが行う形だ。我々もTRIGGER社もクレイジーだ。ともに妥協をしない。双方が納得いくまで徹底的にやった結果、凄い相乗効果が生まれた。
M:我々から彼らへのオーダーで重視しているのは、何よりアトモスフィア、攻めの姿勢……ニンジャであり、ロックンロール。原初のサイバーパンクが持っていたあの猥雑なドぎつい感覚。何事も根本が重要だ。カラテと同じようにね。

アニメトレーラーの音楽はティザーPVに引き続きBOOM BOOM SATELLITESの「BACK IN BLACK」が使用されています。こちらの曲の印象は?

M:とてもサイバーパンクだね。
B:ロックでもある。
M:そのとおりだ!

日本のアニメファンの間でも注目度が高いこの作品ですが、最後に楽しみにしている方々へメッセージをいただけますか?

M:この作品は世界を恐るべきカラテで殴りつけ、揺り動かすだろう。過去のどこかにあったように感じるのに、いざ探そうとすると、過去のどこにもない。いわばミッシングリンクだ。歴史の枝葉を伸ばすのではなく、幹に立ち返って、幹を伸ばした!
B:なぜ我々がここまで自信満々かって?それはトレイラーのさらにその先まで既に目にし、音を耳にしているからだ。早く皆にも完成した映像を見て欲しいね!

【後半戦】VS翻訳チーム

本兌有(ホンダ　ユウ)
「ニンジャスレイヤー」の翻訳チームスタッフ。主にブラッドレー・ボンドの執筆エピソードを翻訳。座右の映画は『コナン・ザ・グレート』と『ヒルズ・ハブ・アイズ』『ガルシアの首』。地下室でケッチャムを繰り返し読むうちに頭がばくはつしてニンジャ真実に到達した。

杉ライカ(スギ　ライカ)
「ニンジャスレイヤー」の翻訳チームスタッフ。主にフィリップ・ニンジャ・モーゼズが執筆したエピソードを翻訳。『デスペラード』を繰り返し観ているうちにサブリミナルメッセージに気付き、ニンジャスレイヤー翻訳を開始。ビールとドリトスとゴシック文学がだいこうぶつ。

本兌さん兌　杉さん:杉

ティザーPVでも言及されていましたが「ニンジャスレイヤー」との最初の出会いは同人誌だったとか。初見の印象をお聞かせください。

兌:正直、最初はものすごく笑いました。
杉:いわゆる勘違い日本とかB級ニンジャ映画みたいな……そういうのだと思ってたんです。そういう大好きだったので。
兌:でも読んでいくうちに、だんだん真顔になっていって……。
杉:ああ、これはシリアスな物語なんだと気付きました。
兌:インタビューだと、この話いつもしてますね(笑)

Twitterでリアルタイム翻訳連載を始めるに至ったきっかけは何だったんでしょうか?

兌:何だったっけ……。
杉:やってみたらなんか面白かった的な。
兌:そういう感じだったと思います!

Twitterから火がつき、様々なメディアミックスを経て、ついにアニメ化となりました。今のお気持ちをお聞かせください。

杉:とにかく根底には、ニンジャスレイヤーという素晴らしい作品をもっと多くの人に知ってほしい、というのがあるんです。
兌:そうですね、ぶっちゃけ手段はどうでもいいんです。Twitterでなくてもよかったわけで。
杉:なので、アニメ化でまた新たな層に届いてニンジャヘッズが増えるのは純粋に嬉しく。億単位で増えますね、これは!

スタジオトリガーさんの印象は?

兌、杉:キルラキル。

お二人は脚本会議にも参加されているとか?

兌、杉:ハイ。
兌:荻窪のTRIGGER社で夜、頻繁に。
杉:予想していたよりもスムーズでした。
初稿OKも多かったので。
兌:頑張って粗探ししたんですが、悔しいほどに原作を読み込まれている(笑)。監督の手持ちの原作書籍は付箋ビッシリで、ヨレヨレになってました。
杉:こちらからもアイディアを沢山出しています。共同作業のような形で進められたので、非常にクリエイティブでした。
兌:そして少しでもニンジャスレイヤーに興味を持った方には、ぜひ原作を読んでいただきたい。ニンジャソウル、情け容赦ない復讐のカラテ、そしてサイバーパンク……あなたの読みたかったニンジャの全てが、そこにある。原作小説!三種のコミカライズ!　そして春からはアニメ!
もはや大車輪なのだ!

アニメの制作現場で驚いたことは何かありましたか?

兌:本読み会議にはスシとかは出ないんだな、という事ですね。
杉:チョコ棒とかでしたね。
兌:これは別に全然期待していたとか、そういうのではないんですが。
杉:いやいや、素晴らしいものになるという確信がありました。この先をまだお見せできないというのが、非常につらい。ニンジャヘッズにとっては、ストーチャリングめいた過酷な時代になるでしょう。目の前にスシがあるし、しかし春まで食べられない!
杉:しかし、その先には必ずスシがあるので安心して頂きたい。そこには必ずスシがある。危険なトロ・スシが。我々はすでにそれを知っています。
兌:そして春からはアニメ!

ティザーPVから火がつき、様々なメディアミックスを経て、ついにアニメ化となりました。今のお気持ちをお聞かせください。

杉:とにかく根底には、ニンジャスレイヤーという素晴らしい作品をもっと多くの人に知ってほしい、というのがあるんです。
兌:そうですね、ぶっちゃけ手段はどうでもいいんです。Twitterでなくてもよかったわけで。
杉:なので、アニメ化でまた新たな層に届いてニンジャヘッズが増えるのは純粋に嬉しく。億単位で増えますね、これは!

スタジオトリガーさんの印象は?

兌、杉:キルラキル。

お二人は脚本会議にも参加されているとか?

兌、杉:ハイ。
兌:荻窪のTRIGGER社で夜、頻繁に。
杉:予想していたよりもスムーズでした。
初稿OKも多かったので。
兌:頑張って粗探ししたんですが、悔しいほどに原作を読み込まれている(笑)。監督の手持ちの原作書籍は付箋ビッシリで、ヨレヨレになってました。
杉:こちらからもアイディアを沢山出しています。共同作業のような形で進められたので、非常にクリエイティブでした。
兌:そして少しでもニンジャスレイヤーに興味を持った方には、ぜひ原作を読んでいただきたい。ニンジャソウル、情け容赦ない復讐のカラテ、そしてサイバーパンク……あなたの読みたかったニンジャの全てが、そこにある。原作小説!三種のコミカライズ!　そして春からはアニメ!
もはや大車輪なのだ!

アニメの制作現場で驚いたことは何かありましたか?

兌:本読み会議にはスシとかは出ないんだな、という事ですね。
杉:チョコ棒とかでしたね。
兌:これは別に全然期待していたとか、そういうのではないんですが。
杉:いやいや、素晴らしいものになるという確信がありました。この先をまだお見せできないというのが、非常につらい。ニンジャヘッズにとっては、ストーチャリングめいた過酷な時代になるでしょう。目の前にスシがあるし、しかし春まで食べられない!
杉:しかし、その先には必ずスシがあるので安心して頂きたい。そこには必ずスシがある。危険なトロ・スシが。我々はすでにそれを知っています。
兌:そして春からはアニメ!

先頃ついにアニメトレーラーが解禁になりました。

M:気がつくと20回ほど見返していた。このトレーラーはとても情報密度が凄い。高密度に圧縮されていて、初めて見たら面食らうだろう。つまり、カラテの一撃だ!
B:備えていた私でさえ、凄まじい衝撃に打たれた。ビューティフルだ。

岡崎能士さんのイラストを用いたポスターとは大きく絵柄が違いますね。

M:あれは僕が「アブロサムライ」のファンだったので、頼んでみてくれと伝えたものだ。すると快諾され、それにはとても良さがあったのでポスターにしてもらった。
B:言ってみるものだな。

コミカライズでもその媒体に合った様々なニンジャスレイヤーが描かれております。アニメでもまた違った描かれ方がされておりますが、これは何故ですか?

B:我々はとにかくビジュアルイメージを固定化させたくないんだ。これはもう私の中に昔からある、強迫観念のひとつ……あるいは原初的恐怖といっても過言であるまい。どんなに素晴らしいものでも、単一の決定的なイメージで固定されたり、押し付けられたりしてはいけない。無限の広がりを失ってしまう。この場でこんなことを言うのは気が引けるが、最も尊いのはコミックでもアニメでも小説の挿絵でもなく、君の思い描くニンジャスレイヤーなんだ。たとえどこから入ってきたとしても、我々の小説にはそれに負けないパワーがあるし、君のイマジネイションもまた同様だ。その自負があるから出来る事だとも言える。これはある種の真剣勝負、イクサなんだ。
M:難しく考えずに、好きなものをチョイスすればいいんだよ(笑)。例えば僕はブルース・ティムのミニマルな線で描かれた老バットマンも好きだし、デイヴ・マッキーンの超シリアスで幻想的なバットマンだって大好きだ。
もちろん僕自身で描いた事だってある。たとえば今から十年も二十年も後にビールを飲みながらそういう話を他のニンジャヘッズと愉しめたら、最高にクールじゃないか。全てはそういうことさ。今回のアニメイションは素晴らしい作品になるだろう。でも君自身のニンジャスレイヤーを描く事があるなら、それはもっと素晴らしい事だと思うし、嬉しい限りだよ。

ネオサイタマ、炎上。

物理小説

最新刊
「キョート・ヘル・オン・アース(上)」
著者:ブラッドレー・ボンド、フィリップ・N・モーゼズ
訳:本兌有、杉ライカ
画:わらいなく
ネオサイタマ炎上編①～④
キョート殺伐都市編①～⑥

物理コミック

カドカワコミックス・エース
ニンジャスレイヤー❸
～ラスト・ガール・スタンディング(ニ)～
漫画:余湖裕輝
脚本:田畑由秋

B's-LOG COMICS
ニンジャスレイヤー グラマラス・キラーズ❷
漫画:さおとめあげは

シリウスKC
ニンジャスレイヤー 殺(キルズ)❶
漫画:関根光太郎
ニコニコ静画
「水曜日のシリウス」にて連載中!

最新PV公開中!

NINJA CONSPIRACY PRESENTS, A STUDIO TRIGGER PRODUCTION "NINJA SLAYER"
BASED ON NOVELS BY BRADLEY BOND AND PHILIP NINJA MORZEZ, PUBLISHED BY KADOKAWA ENTERBRAIN
JAPANESE TRANSLATION AND NINJA SUPERVISION BY YU HONDA AND LEIKA SUGI, MUSIC PRODUCED BY STARCHILD RECORDS
ANIMATION PRODUCED BY KING RECORS AND FIELDS, DIRECTED BY AKIRA AMEMIYA

http://www.ninjaslayer-animation.com/

©Ninj@ Entertainment/Ninj@ Conspiracy

アニメガイド
ANIME GUIDE 2014 WINTER

KING RECORDS